

## 第3章

# パラリンピアンに対する社会的認知度調査

## 調査概要

### (1)調査目的

東京 2020 パラリンピック大会開催後のパラリンピアンに対する社会的認知度を測定する。  
前回調査との比較を行い、変化、傾向、要因などを調査する。

### (2)調査内容

主な調査内容は以下のとおりである。

- ・パラリンピアンへの社会的認知度
- ・東京大会の視聴状況
- ・日常生活におけるスポーツ環境

### (3)調査対象

全国の市町村に在住する 20 歳以上の男女

### (4)調査期間

2021 年 11 月 10 日(水)～2021 年 11 月 11 日(木)

### (5)調査方法

インターネットによるウェブ調査

当財団調べ(マクロミルモニタを利用)

### (6)回答結果 回答者数:2,060 人

|                  |     |                  |     |
|------------------|-----|------------------|-----|
| 東日本エリア/男性/20 代   | 103 | 西日本エリア/男性/20 代   | 103 |
| 東日本エリア/男性/30 代   | 103 | 西日本エリア/男性/30 代   | 103 |
| 東日本エリア/男性/40 代   | 103 | 西日本エリア/男性/40 代   | 103 |
| 東日本エリア/男性/50 代   | 103 | 西日本エリア/男性/50 代   | 103 |
| 東日本エリア/男性/60 代以上 | 103 | 西日本エリア/男性/60 代以上 | 103 |
| 東日本エリア/女性/20 代   | 103 | 西日本エリア/女性/20 代   | 103 |
| 東日本エリア/女性/30 代   | 103 | 西日本エリア/女性/30 代   | 103 |
| 東日本エリア/女性/40 代   | 103 | 西日本エリア/女性/40 代   | 103 |
| 東日本エリア/女性/50 代   | 103 | 西日本エリア/女性/50 代   | 103 |
| 東日本エリア/女性/60 代以上 | 103 | 西日本エリア/女性/60 代以上 | 103 |

(7) 調査報告並びにトピック内に示した図表の注意事項

- ・ 帯グラフにおいて 3%未満のデータラベルは非表示とした
- ・ クロス集計においては、原則  $\chi^2$  検定分析による有意差検定で処理して、有意水準 1% を▲▼、5%を△▽、10%を∴∴で表示するとともに、有意差が認められない場合には非表示とした。

## 要約

- ◆ 最も認知度が高い選手は「国枝慎吾」(45.2%)で、ついで、「上地結衣」(22.5%)、「富田宇宙」(11.3%)、「池崎大輔」(8.7%)、「山本篤」(7.9%)であった。
- ◆ 実施競技の正答率が最も高かったのは「国枝慎吾(車いすテニス)」(81.2%)で、ついで、「上地結衣(車いすテニス)」(71.2%)、「鳥海連志(車いすバスケットボール)」(57.1%)、「木村敬一(水泳)」(56.7%)、「道下美里(陸上競技)」(51.4%)であった。
- ◆ 東京オリンピックの観戦形態は、「テレビで中継番組を観た」が 59.5%で最も多く、ついで、「テレビのニュース番組で観た」(51.4%)、「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」(17.3%)であった。「テレビやインターネットで観戦しなかった」は 25.3%であった。
- ◆ 東京パラリンピックの観戦形態は、「テレビのニュース番組で観た」が 42.9%で最も多く、ついで、「テレビで中継番組を観た」(33.0%)、「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」(11.7%)であった。観戦した競技は、「車いすテニス」(46.2%)が最も多く、ついで、「水泳」(41.5%)、「車いすバスケットボール」「開会式」(35.7%)「陸上競技」(31.7%)であった。
- ◆ 東京パラリンピックを観戦した感想は、「アスリートとして非常に優れていると感じた」(76.4%)が最も多く、ついで、「障害の有無にかかわらず、スポーツは一緒にできると感じた」(70.3%)、「障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた」(68.3%)であった。「2024 年パリ・パラリンピックを直接観戦したい」は 23.2%で、2016 年度調査で尋ねた「2020 年東京・パラリンピックを直接観戦したい」の 35.2%より減少した。
- ◆ 東京オリンピック・パラリンピックのチケットの申し込み状況は、オリンピック・パラリンピックのいずれか、もしくはどちらも申し込んだのは 10.3%で、約 9 割は「オリンピックもパラリンピックも申し込まなかった」。地域別でみると、関東地方は他地域よりも高く、16.8%がオリンピック・パラリンピックのいずれか、もしくはどちらも申し込んだ。
- ◆ 日常生活の中で障害のある人がスポーツを行う光景をみたことがあるかについて、「障害のある人がスポーツを行う光景をみることがある」は、2016 年度調査の 6.0%から 9.4%に増加した。地域別では、関東地方で、2016 年度調査の 3.7%から 8.6%と 2 倍以上増加した。

## 調査報告

## 1. パラリンピアン認知度

パラリンピアン 45 名を対象に認知度を尋ねた。

45 名の抽出条件は以下のとおりである。

### <条件①>

「テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査」において、東京大会に出場した 254 名のうち、放送時間の多い上位 30 人(107 ページ参照)

### <条件②>

直近 4 大会(北京大会、ロンドン大会、リオデジャネイロ大会、東京大会)に出場した選手(条件①の対象者を除く)→12 人が対象

### <条件③>

2016 年度調査時の調査対象者であり、東京大会でメダルを獲得した選手→3 人が対象

条件①～③のいずれかを満たした選手 45 名を対象に調査した結果、最も認知度の高い選手は、「国枝慎吾」であり、「知っている」「聞いたことがある」を合わせると、45.2%であった(図表 3-1)。ついで、「上地結衣」22.5%(知っている:12.9%、聞いたことがある:9.6%)、「富田宇宙」11.3%(知っている:3.4%、聞いたことがある:7.9%)、「池崎大輔」8.7%(知っている:3.5%、聞いたことがある:5.2%)、「山本篤」7.9%(知っている:3.3%、聞いたことがある:4.6%)だった。前述の「知っている」「聞いたことがある」と回答した人を対象に実施競技について尋ねたところ、正答率が最も高かったのは「国枝慎吾(車いすテニス)」の 81.7%であった。ついで、「上地結衣(車いすテニス)」(71.2%)、「道下美里(陸上競技)」(57.9%)、「鳥海連志(車いすバスケットボール)」(57.1%)、「木村敬一(水泳)」(56.7%)であった。

図表 3-1 パラリンピアン認知度と正答率(上位 30 人)

(96)

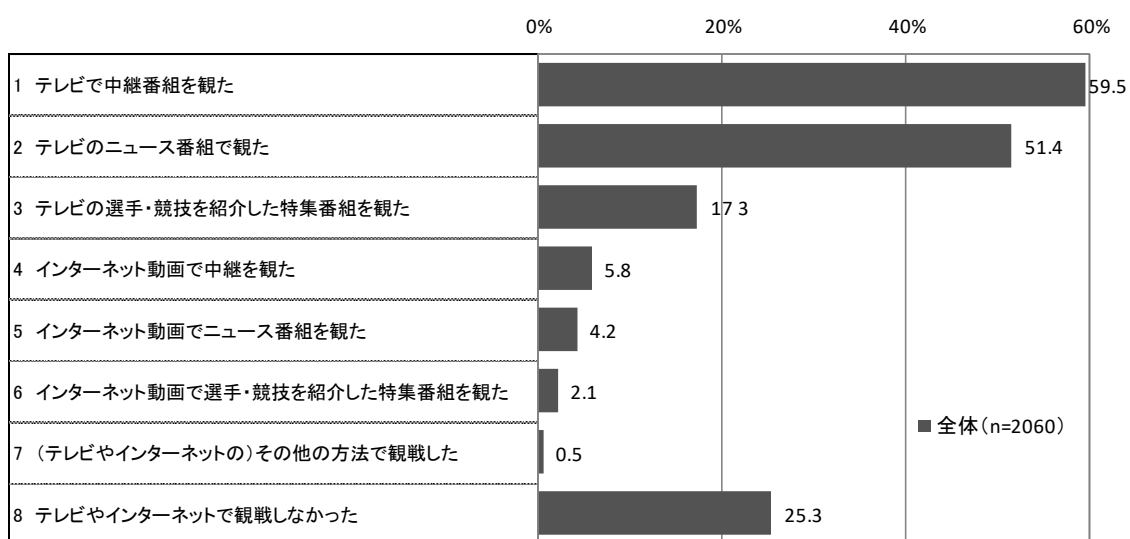
| NO | 氏名                    | 全体(N) | 認知している |       |          | 知らない | 競技名             | 正答率  |
|----|-----------------------|-------|--------|-------|----------|------|-----------------|------|
|    |                       |       |        | 知っている | 聞いたことがある |      |                 |      |
| 1  | 国枝 慎吾 (くにえだ しんご)      | 2060  | 45.2   | 31.3  | 13.9     | 54.8 | 車いすテニス          | 81.7 |
| 2  | 上地 結衣 (かみじ ゆい)        | 2060  | 22.5   | 12.9  | 9.6      | 77.6 | 車いすテニス          | 71.2 |
| 3  | 富田 宇宙 (とみた うちゅう)      | 2060  | 11.3   | 3.4   | 7.9      | 88.6 | 水泳              | 36.8 |
| 4  | 池崎 大輔 (いけさき だいすけ)     | 2060  | 8.7    | 3.5   | 5.2      | 91.3 | 車いすラグビー         | 28.3 |
| 5  | 山本 篤 (やまもと あつし)       | 2060  | 7.9    | 3.3   | 4.6      | 92.1 | 陸上競技            | 37.7 |
| 6  | 和田 伸也 (わだ しんや)        | 2060  | 7.9    | 2.5   | 5.4      | 92.1 | 陸上競技            | 11.7 |
| 7  | 木村 敬一 (きむら けいいち)      | 2060  | 7.3    | 3.8   | 3.5      | 92.7 | 水泳              | 56.7 |
| 8  | 瀬立 モニカ (せりゅう もにか)     | 2060  | 7.1    | 2.3   | 4.8      | 92.9 | カヌー             | 21.8 |
| 9  | 鈴木 孝幸 (すずき たかゆき)      | 2060  | 6.9    | 2.4   | 4.5      | 93.1 | 水泳              | 38.5 |
| 10 | 道下 美里 (みちした みさと)      | 2060  | 6.8    | 3.7   | 3.1      | 93.2 | 陸上競技            | 57.9 |
| 11 | 鳥海 連志 (ちょうかい れんし)     | 2060  | 6.1    | 3.3   | 2.8      | 93.9 | 車いすバスケットボール(男子) | 57.1 |
| 12 | 日向 楓 (ひなた かえで)        | 2060  | 6.0    | 1.6   | 4.4      | 94.1 | 水泳              | 21.3 |
| 13 | 藤本 怜央 (ふじもと れお)       | 2060  | 5.8    | 2.0   | 3.8      | 94.2 | 車いすバスケットボール(男子) | 22.7 |
| 14 | 村岡 桃佳 (むらおか ももか)      | 2060  | 5.8    | 1.9   | 3.9      | 94.2 | 陸上競技            | 12.5 |
| 15 | 中西 麻耶 (なかにし まや)       | 2060  | 5.2    | 2.4   | 2.8      | 94.8 | 陸上競技            | 47.2 |
| 16 | 谷真 海 (たに まみ)          | 2060  | 5.1    | 2.8   | 2.3      | 95.0 | トライアスロン         | 20.2 |
| 17 | 岡崎 愛子 (おかざき あいこ)      | 2060  | 5.1    | 1.5   | 3.6      | 95.0 | アーチェリー          | 8.7  |
| 18 | 土田 和歌子 (つちだ わかこ)      | 2060  | 4.7    | 2.3   | 2.4      | 95.3 | 陸上競技、トライアスロン    | 30.9 |
| 19 | 伊藤 智也 (いとう ともや)       | 2060  | 4.6    | 1.6   | 3.0      | 95.4 | 陸上競技            | 9.5  |
| 20 | 佐藤 友析 (さとう ともき)       | 2060  | 4.4    | 2.1   | 2.3      | 95.6 | 陸上競技            | 26.4 |
| 21 | 鈴木 徹 (すずき とおる)        | 2060  | 4.3    | 0.9   | 3.4      | 95.7 | 陸上競技            | 9.0  |
| 22 | 山田 美幸 (やまだ みゆき)       | 2060  | 4.2    | 1.8   | 2.4      | 95.7 | 水泳              | 34.1 |
| 23 | 香西 宏昭 (こうざい ひろあき)     | 2060  | 4.0    | 1.7   | 2.3      | 96.0 | 車いすバスケットボール(男子) | 30.5 |
| 24 | 杉浦 佳子 (すぎうら けいこ)      | 2060  | 3.9    | 1.7   | 2.2      | 96.0 | 自転車競技           | 19.5 |
| 25 | 浦田 理恵 (うらた りえ)        | 2060  | 3.8    | 1.4   | 2.4      | 96.2 | ゴールボール(女子)      | 23.1 |
| 26 | 上与那原 寛和 (うえよなばる ひろかず) | 2060  | 3.8    | 1.3   | 2.5      | 96.2 | 陸上競技            | 21.5 |
| 27 | 池 透暢 (いけ ゆきのぶ)        | 2060  | 3.7    | 1.8   | 1.9      | 96.3 | 車いすラグビー         | 36.8 |
| 28 | 杉村 英孝 (すぎむら ひでたか)     | 2060  | 3.6    | 1.8   | 1.8      | 96.4 | ボッチャ            | 37.3 |
| 29 | 里見 紗李奈 (さとみ さりな)      | 2060  | 3.6    | 1.0   | 2.6      | 96.4 | バドミントン          | 12.0 |
| 30 | 山田 拓朗 (やまだ たくろう)      | 2060  | 3.4    | 1.2   | 2.2      | 96.7 | 水泳              | 15.9 |

## 2. 東京オリンピック・パラリンピックの観戦

### 2.1 オリンピックの観戦形態

東京オリンピックの観戦形態についてみると、「テレビで中継番組を観た」が 59.5%と最も多く、ついで「テレビのニュース番組で観た」(51.4%)であった(図表 3-2)。

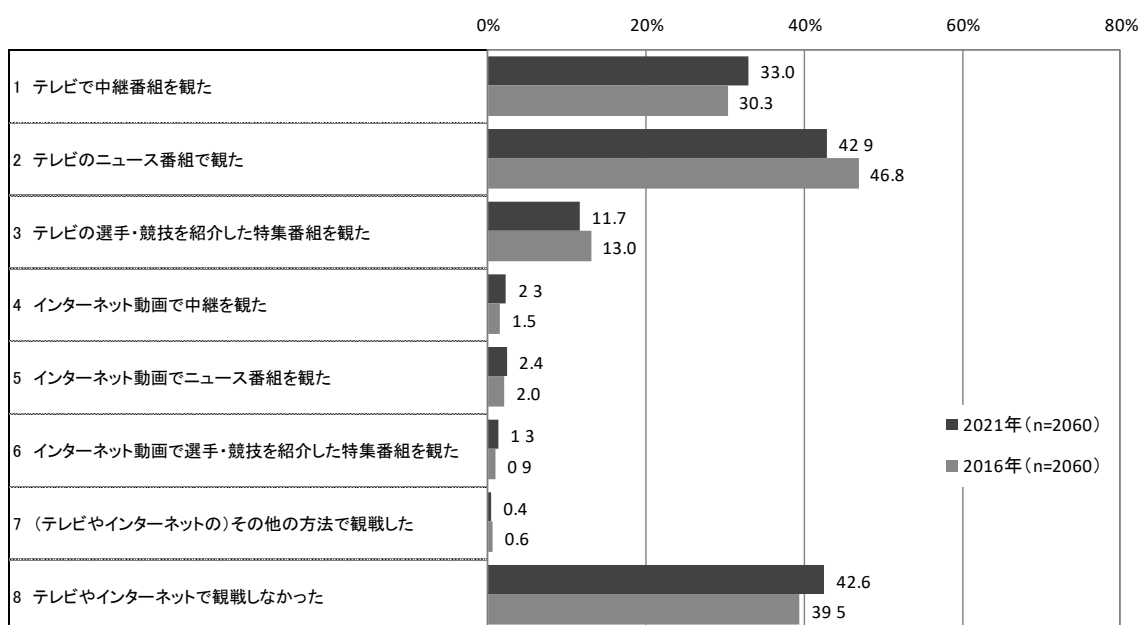
図表 3-2 東京オリンピックの観戦形態(複数回答)



## 2.2 パラリンピックの観戦形態

東京パラリンピックの観戦形態についてみると、「テレビのニュース番組で観た」が42.9%と最も多く、ついで、「テレビで中継番組を観た」(33.0%)であった(図表 3-3)。リオデジャネイロ大会の観戦形態を尋ねた前回調査と比べて、「テレビで中継番組を観た」「テレビのニュース番組で観た」がほとんど変わらなかった。「テレビやインターネットで観戦しなかった」も、ほとんど変化がみられなかった。

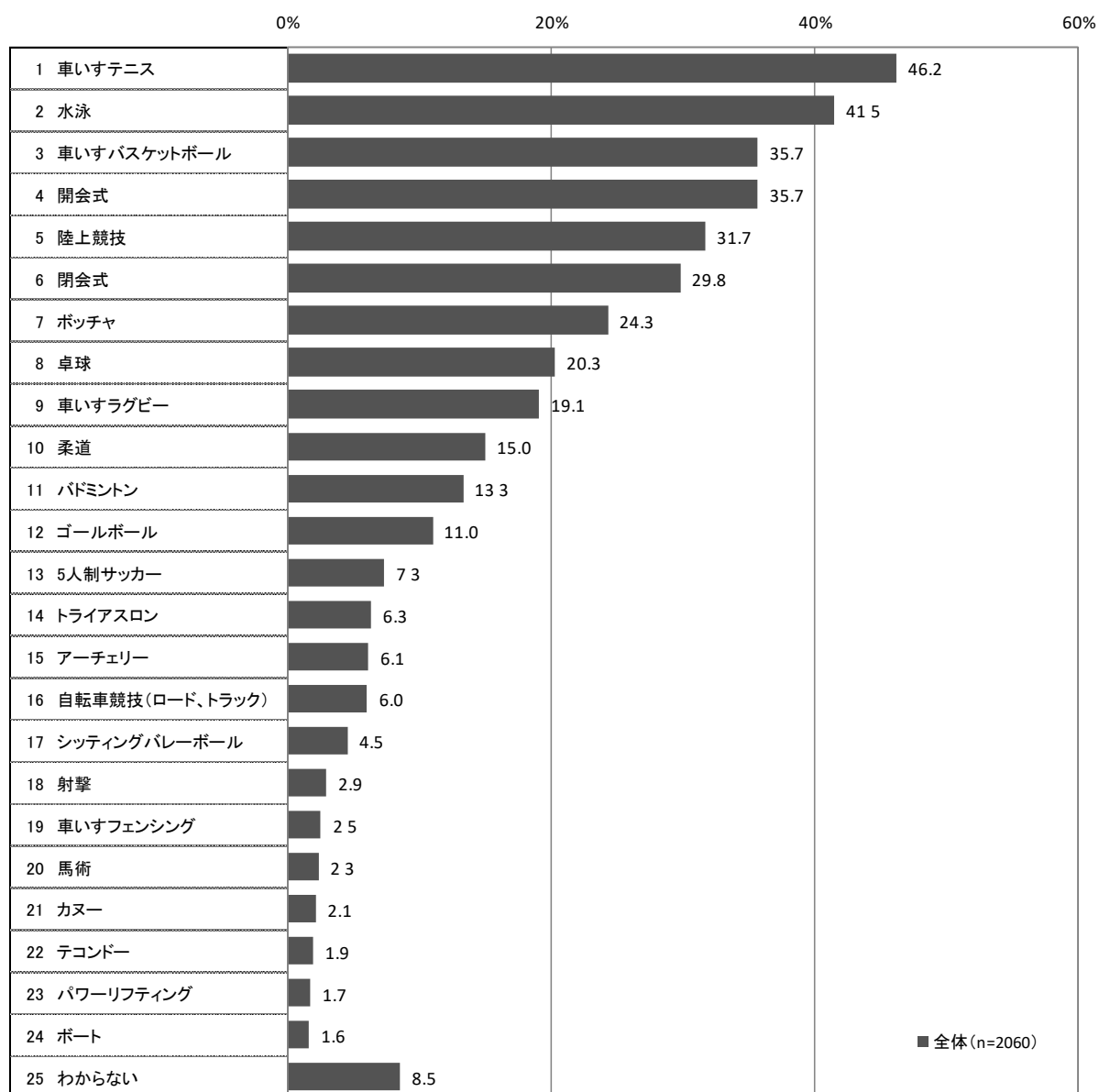
図表 3-3 東京パラリンピックの観戦形態(複数回答)



## 2.3 観戦種目

テレビやインターネットで東京パラリンピック大会を観戦した人のうち、観戦競技について尋ねたところ、「車いすテニス」が 46.2%で最も多く、ついで、「水泳」(41.5%)、「車いすバスケットボール」(35.7%)、「開会式」(35.7%)、「陸上競技」(31.7%)、「閉会式」(29.8%)であった(図表 3-4)。「わからない」が 8.5%であった。

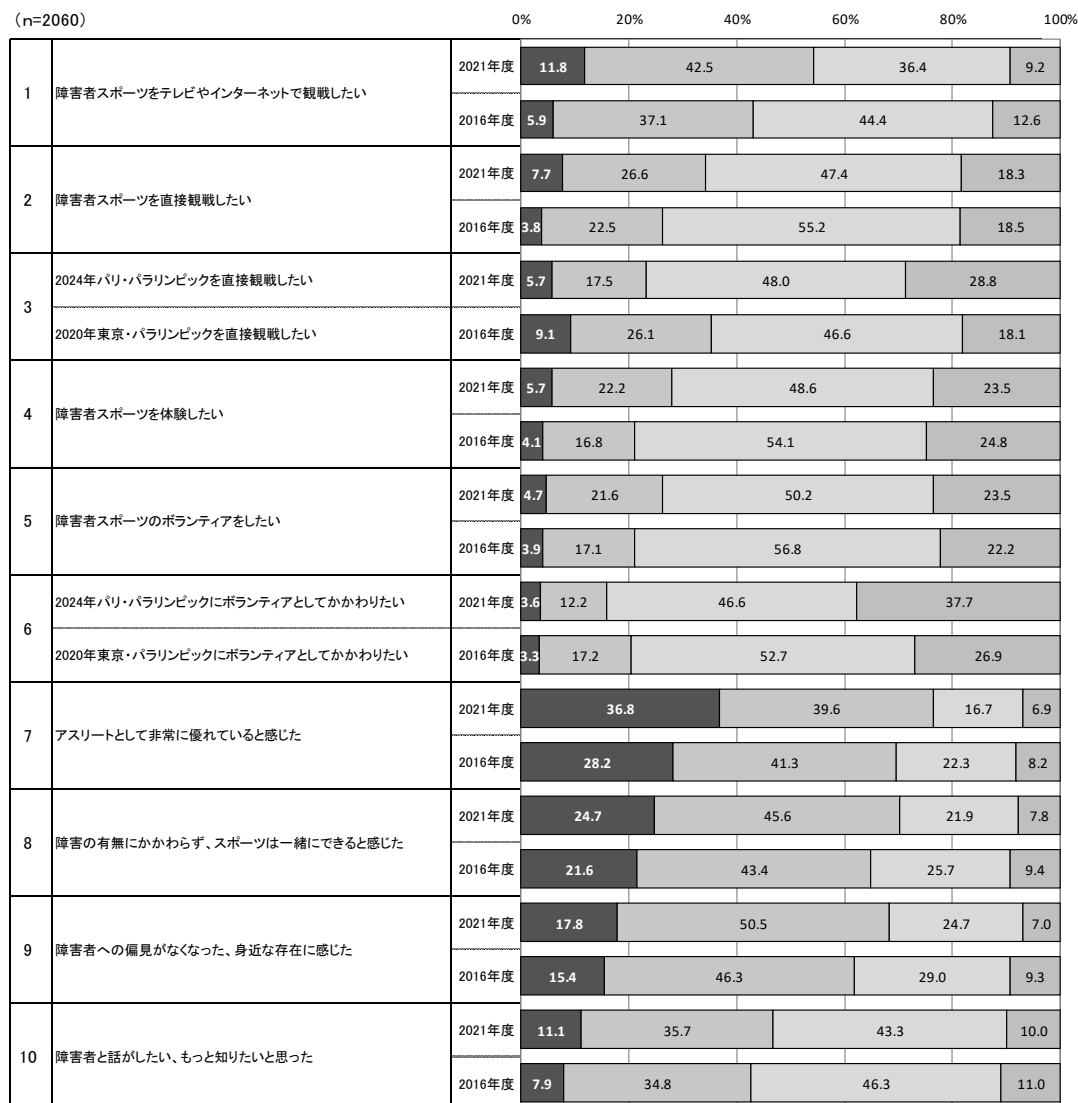
図表 3-4 東京パラリンピックの観戦競技(複数回答)



## 2.4 東京パラリンピック大会観戦後の感想

テレビやインターネットで東京パラリンピック大会を観戦した人のうち、観戦した感想について尋ねたところ、最も多かったのが「アスリートとして非常に優れていると感じた」であった(図表 3-5)。「よく当てはまる」(36.8%)と「やや当てはまる」(39.6%)を合わせると 7 割を超えた。ついで、「障害の有無にかかわらず、スポーツは一緒にできると感じた」の 70.3%(よく当てはまる:24.7%、やや当てはまる:45.6%)、「障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた」の 68.3%(よく当てはまる:17.8%、やや当てはまる:50.5%)であった。「2024 年パリ・パラリンピックを直接観戦したい」は 23.2%(よく当てはまる:5.7%、やや当てはまる:17.5%)で、前回調査で尋ねた「2020 年東京・パラリンピックを直接観戦したい」の 35.2%(よく当てはまる:9.1%、やや当てはまる:26.1%)よりも減少した。

図表 3-5 東京パラリンピック大会観戦後の感想



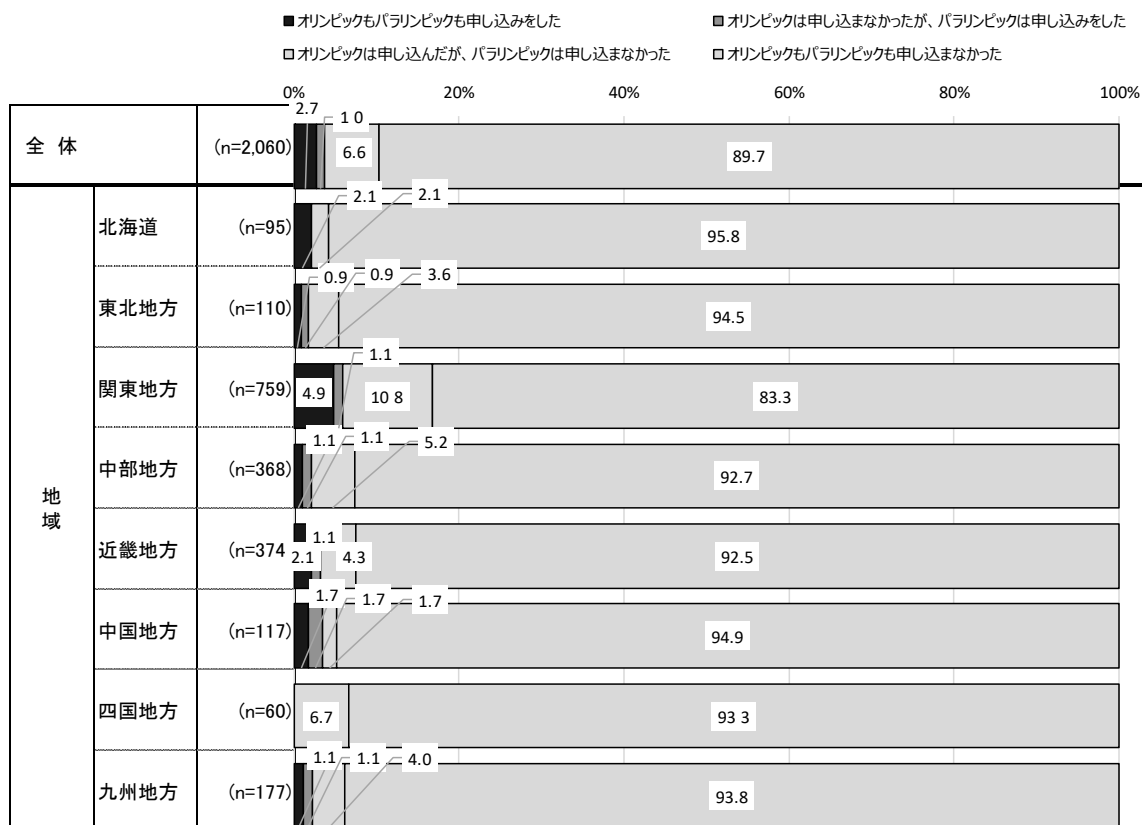
■よく当てはまる □やや当てはまる □あまり当てはまらない □まったく当てはまらない

### 3. 東京オリンピック・パラリンピックのチケット購入状況

#### 3.1 チケットの申込状況

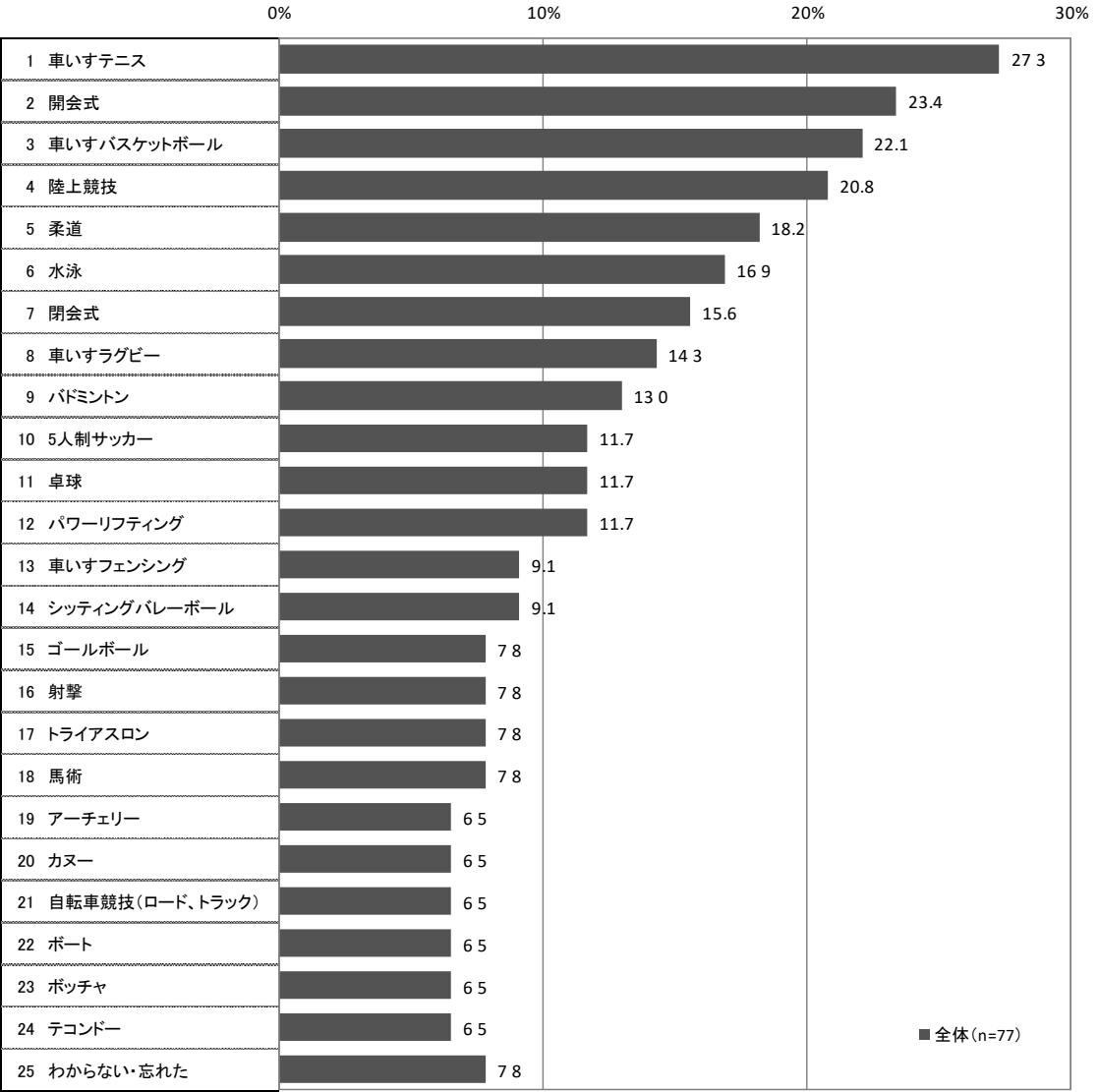
東京オリンピック・パラリンピックのチケットの申し込み状況について尋ねたところ、「オリンピックもパラリンピックも申し込みをした」は2.7%、「オリンピックは申し込みなかったが、パラリンピックは申し込みをした」は1.0%、「オリンピックは申し込んだが、パラリンピックは申し込みなかった」は6.6%だった(図表3-6)。「オリンピックもパラリンピックも申し込みなかった」のは約9割だった。地域別にみると、「関東地方」では、「オリンピックもパラリンピックも申し込みをした」は4.9%、「オリンピックは申し込みなかったが、パラリンピックは申し込みをした」は1.1%、「オリンピックは申し込んだが、パラリンピックは申し込みなかった」は10.8%と、いずれも全体平均より高かった。

図表 3-6 チケット申込状況



東京パラリンピックのチケットを申し込んだ人の競技についてみると、「車いすテニス」が27.3%と最も多く、ついで、「開会式」(23.4%)、「車いすバスケットボール」(22.1%)、「陸上競技」(20.8%)、「柔道」(18.2%)だった(図表 3-7)。

図表 3-7 チケット申込競技(複数回答)

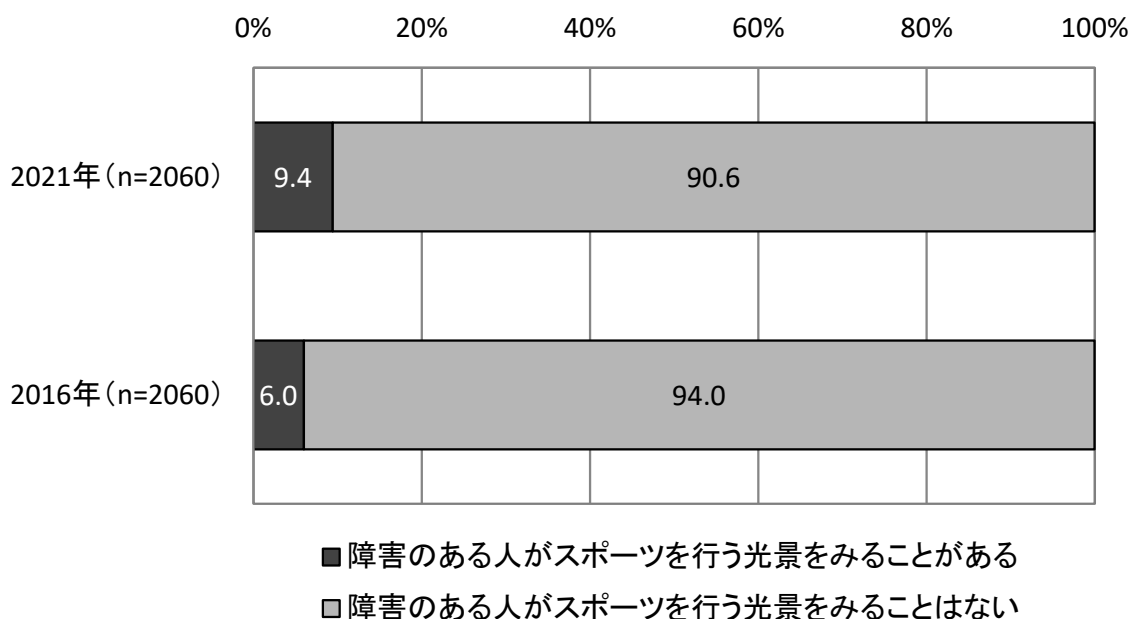


## 4. 障害者スポーツとの接点

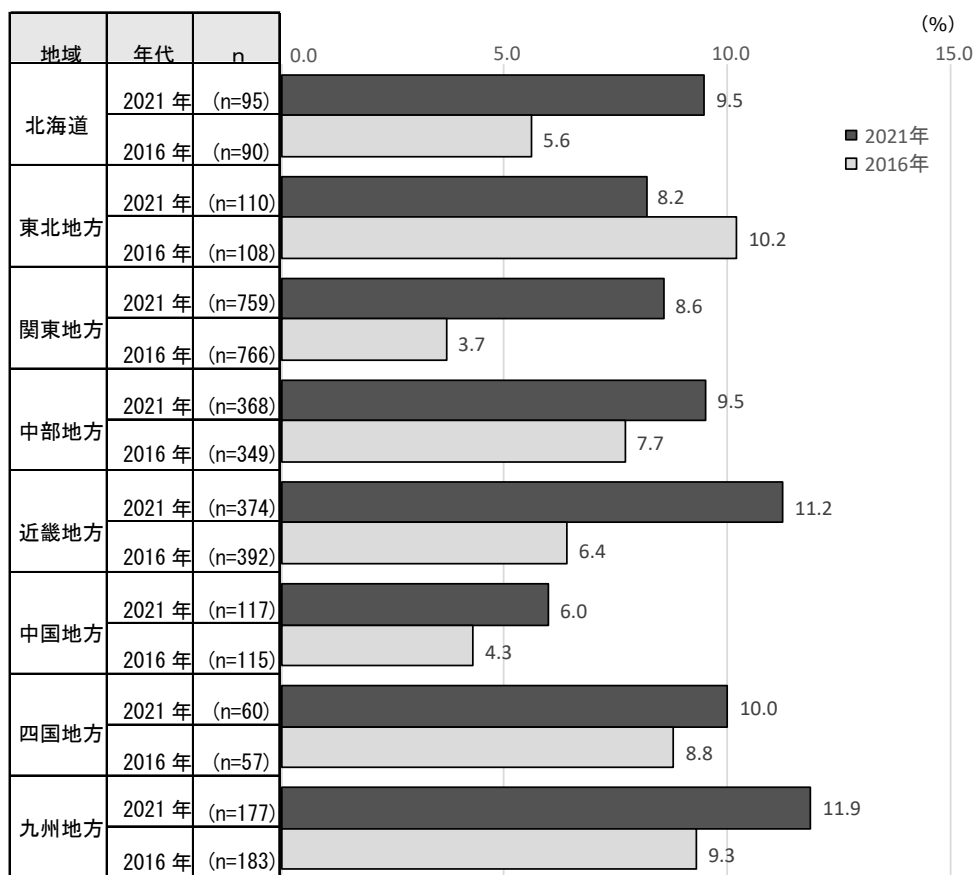
### 4.1 障害のある人がスポーツを行う光景・種目

日常生活の中で人々がスポーツを行う光景を見ることがあるかについて尋ねたところ、「障害のある人がスポーツを行う光景を見ることがある」は、2016 年度調査の 6.0%から 9.4%に増加した(図表 3-8)。地域別にみると、関東地方で 2016 年度調査(3.7%)から 8.6%と 2 倍以上増加した(図表 3-9)。性年代別にみると、「女性/20 代」「女性/20 代」「女性/30 代」「女性/60 代以上」で急増した(図表 3-10)。その中で、見たスポーツの種目は、「バスケットボール」が最も多く、ついで、「テニス」であった(図表 3-11)。「陸上競技」「水泳」「ボッチャ」は 2016 年度調査から、大幅に増加した。

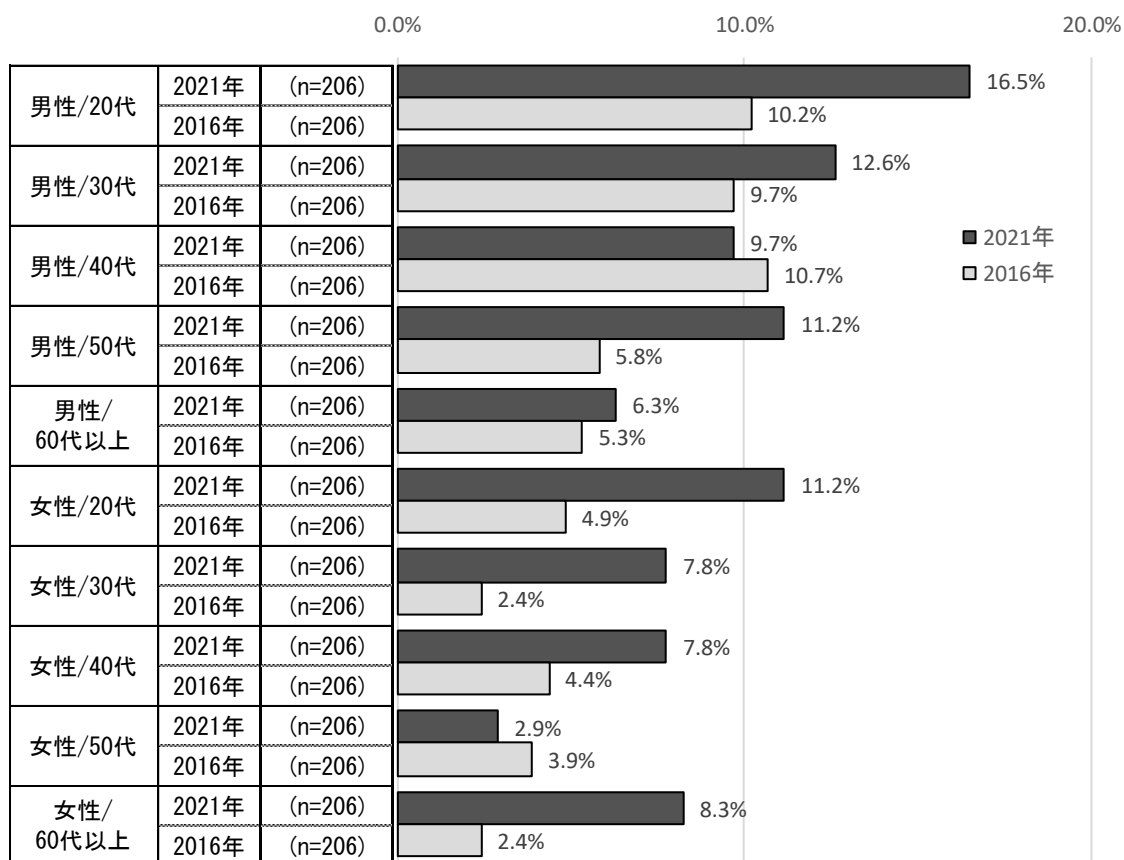
図表 3-8 障害のある人がスポーツを行う光景



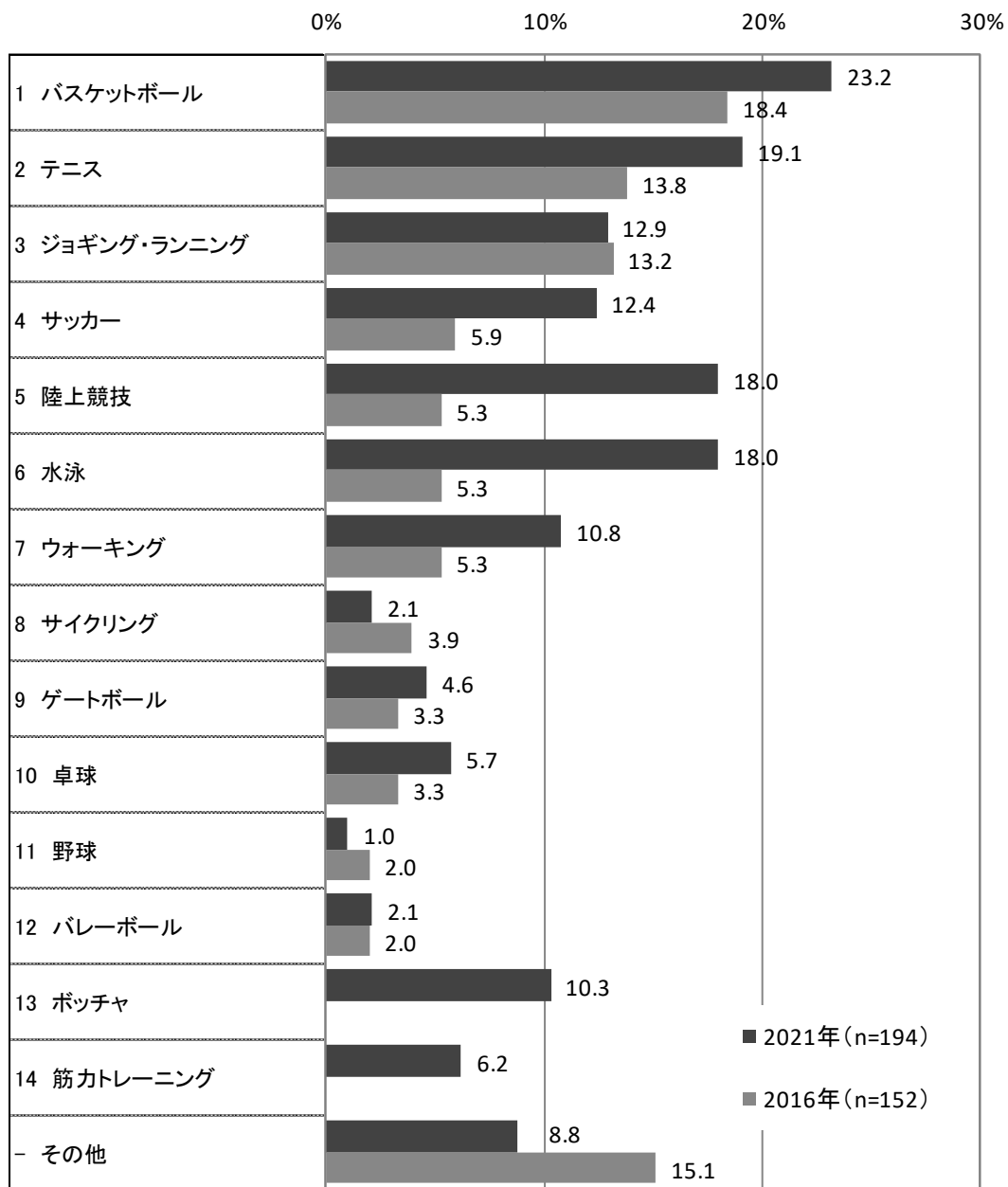
図表 3-9 障害のある人がスポーツを行う光景(地域別)



図表 3-10 障害のある人がスポーツを行う光景(性年代別)



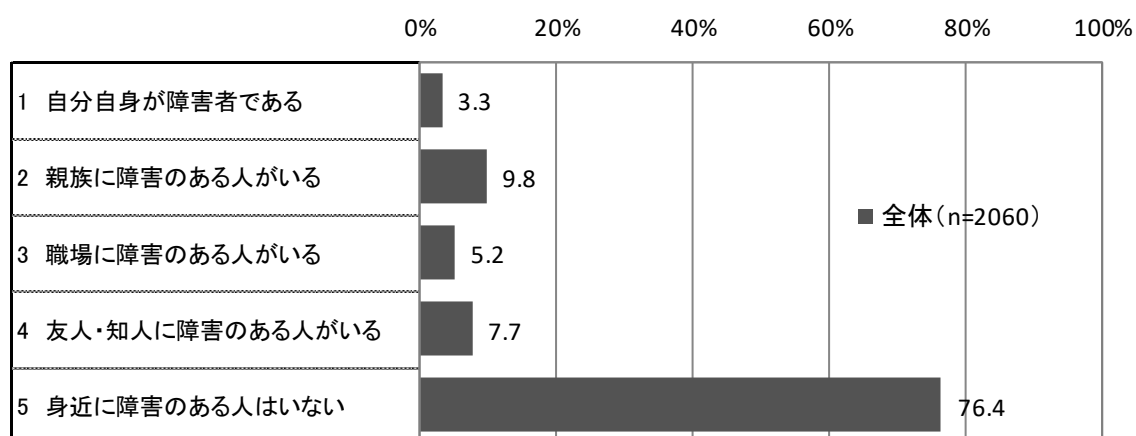
図表 3-11 障害のある人がスポーツを行う光景で見る種目一覧(複数回答)



## 4.2 身近にいる障害のある人

身近に障害のある人について尋ねたところ、「身近に障害のある人はいない」が 76.4%で最も多く、ついで、「親族に障害のある人がいる」(9.8%)、「友人・知人に障害のある人がいる」(7.7%)であった。「自分自身が障害者である」は 3.3%であった(図表 3-12)。

図表 3-12 身近にいる障害のある人の有無



## 5. クロス集計

身近に障害のある人の有無別にパラリンピック観戦形態についてみると、「自分以外の身近な人に障害者がいる」では、「テレビのニュース番組で観た」「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」「(テレビやインターネット)以外のその他の方法で観戦した」が1%水準で有意に高かった(図表 3-13)。一方で、「身近に障害のある人はいない」では、「テレビの中継番組を観た」「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」「インターネット動画で中継番組を観た」「インターネット動画でニュース番組を観た」「インターネット動画で選手・競技を紹介した特集番組を観た」が1%水準で有意に低かった。「テレビやインターネットで観戦しなかった」非実施層は、「身近に障害のある人はいない」が1%水準で有意に高かった。

図表 3-13 身近に障害のある人の有無別にみるパラリンピック観戦形態

|                     |                  | 全体    | テレビで中継番組を観た | テレビのニュース番組で観た | テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た | インターネット動画で中継を観た | インターネット動画でニュース番組を観た | インターネット動画で選手・競技を紹介した特集番組を観た | (テレビやインターネットの)<br>その他の方法で観戦した | テレビやインターネットで観戦しなかった |
|---------------------|------------------|-------|-------------|---------------|-----------------------|-----------------|---------------------|-----------------------------|-------------------------------|---------------------|
|                     |                  | (%)   |             |               |                       |                 |                     |                             |                               |                     |
| 全体                  |                  | 2,060 | 33.0        | 42.9          | 11.7                  | 2.3             | 2.4                 | 1.3                         | 0.4                           | 42.6                |
| あなたの身近に障害のある人がいますか。 | 自分自身が障害者である      | 69    | 37.7        | 43.5          | 14.5                  | 2.9             | 1.4                 | 1.4                         | 0.0                           | 42.0                |
|                     | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 430   | △39.3       | ▲48.8         | ▲18.1                 | 4.9             | △5.6                | △3.3                        | ▲0.7                          | ▼36.0               |
|                     | 身近に障害のある人はいない    | 1,574 | ▼31.2       | ▽41.4         | ▼10.0                 | ▼1.6            | ▼1.6                | ▼0.8                        | 0.3                           | ▲44.3               |

| 【全体との差の検定】 |   |   |  |
|------------|---|---|--|
| 有意水準       | 高 | 低 |  |
| 1%         | ▲ | ▼ |  |
| 5%         | △ | ▽ |  |
| 10%        | △ | ▽ |  |

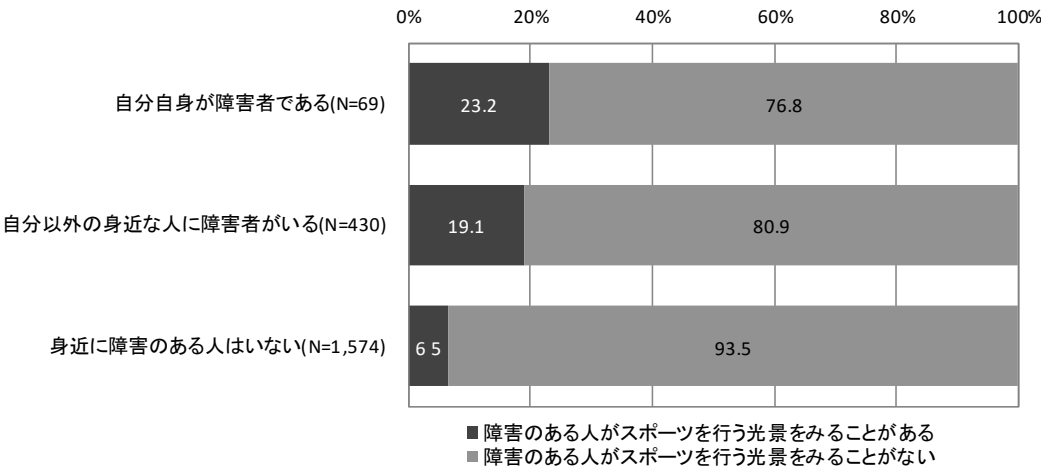
身近に障害のある人の有無別にパラリンピック観戦の感想をみた。「自分以外の身近な人に障害者がいる」では、「障害者スポーツのボランティアをしたい」が「よく当てはまる」において1%水準で有意に高かった(図表 3-14)。一方で、「身近に障害のある人はいない」では、「障害者スポーツを体験したい」「障害者スポーツのボランティアをしたい」「障害者と話がしたい、もっと知りたいと思った」が「よく当てはまる」において1%水準で有意に低かった。

図表 3-14 身近に障害のある人の有無別にみる観戦後の感想

|                                                       |                  | 全体   | よく<br>当て<br>はまる | やや<br>当て<br>はまる | あまり<br>当て<br>はまらない | まったく<br>当て<br>はまらない |
|-------------------------------------------------------|------------------|------|-----------------|-----------------|--------------------|---------------------|
| 【全体との差の検定】<br>有意水準 高 低<br>1% ▲ ▼<br>5% △ ▽<br>10% ・ ∴ |                  |      |                 |                 |                    |                     |
| 障害者スポーツをテレビやインターネットで観戦したい                             | 全体               | 1183 | 11.8            | 42.5            | 36.4               | 9.2                 |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | 20.0            | 42.5            | 32.5               | 5.0                 |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | ∴17.5           | ▲50.9           | ∴26.2              | ▼5.5                |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | ▽9.8            | ▼40.0           | ∴39.7              | ▲10.5               |
| 障害者スポーツを直接観戦したい                                       | 全体               | 1183 | 7.7             | 26.6            | 47.4               | 18.3                |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | 10.0            | 32.5            | 47.5               | 10.0                |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | ∴10.5           | ▲36.0           | ▼39.6              | ▽13.8               |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | ∴6.8            | ▼23.4           | ▲49.9              | △19.8               |
| 2020年東京パラリンピックを直接観戦したい                                | 全体               | 1183 | 5.7             | 17.5            | 48.0               | 28.8                |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | 10.0            | 20.0            | 37.5               | 32.5                |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | ∴8.4            | ∴21.5           | 45.1               | 25.1                |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | ▽4.7            | ∴16.2           | 49.3               | 29.9                |
| 障害者スポーツを体験したい                                         | 全体               | 1183 | 5.7             | 22.2            | 48.6               | 23.5                |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | 12.5            | 22.5            | 42.5               | 22.5                |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | △8.7            | ∴26.5           | 44.7               | 20.0                |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | ▼4.6            | 21.0            | 49.9               | 24.5                |
| 障害者スポーツのボランティアをしたい                                    | 全体               | 1183 | 4.7             | 21.6            | 50.2               | 23.5                |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | 7.5             | 17.5            | 42.5               | 32.5                |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | ▲8.7            | △26.5           | 47.3               | ▼17.5               |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | ▼3.5            | ∴20.2           | 51.3               | ∴25.0               |
| 2020年東京パラリンピックにボランティアとしてかかわりたい                        | 全体               | 1183 | 3.6             | 12.2            | 46.6               | 37.7                |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | 7.5             | 17.5            | ▽30.0              | 45.0                |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | 5.5             | 14.5            | 46.5               | 33.5                |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | ▽2.9            | 11.3            | 47.1               | 38.8                |
| アスリートとして非常に優れていると感じた                                  | 全体               | 1183 | 36.8            | 39.6            | 16.7               | 6.9                 |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | 45.0            | 40.0            | 7.5                | 7.5                 |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | 41.1            | 42.5            | 13.5               | ▼2.9                |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | ∴35.2           | 38.8            | ∴17.9              | △8.1                |
| 障害の有無にかかわらず、スポーツは一緒にできると感じた                           | 全体               | 1183 | 24.7            | 45.6            | 21.9               | 7.8                 |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | 25.0            | 45.0            | 25.0               | 5.0                 |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | 26.9            | 50.2            | 18.9               | ▼4.0                |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | 23.8            | 44.6            | 22.6               | △9.0                |
| 障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた                               | 全体               | 1183 | 17.8            | 50.5            | 24.7               | 7.0                 |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | 17.5            | 52.5            | 22.5               | 7.5                 |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | ∴21.8           | 53.8            | ▽19.3              | 5.1                 |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | ∴16.4           | 49.6            | △26.3              | 7.6                 |
| 障害者と話がしたい、もっと知りたいと思った                                 | 全体               | 1183 | 11.1            | 35.7            | 43.3               | 10.0                |
|                                                       | 自分自身が障害者である      | 40   | △25.0           | 32.5            | 30.0               | 12.5                |
|                                                       | 自分以外の身近な人に障害者がいる | 275  | △15.3           | △41.8           | ▽36.7              | ▽6.2                |
|                                                       | 身近に障害のある人はいない    | 877  | ▼9.4            | ∴34.1           | △45.5              | ∴11.1               |

身近に障害のある人の有無別に、障害のある人がスポーツを行う光景を見ることの有無について尋ねたところ、「障害のある人がスポーツを行う光景を見ることがある」では、「身近に障害のある人はいない」(6.5%)が、「自分自身が障害者である」(23.2%)の約 4 分の 1、「自分以外の身近な人に障害者がいる」(19.1%)の約 3 分の 1 だった(図表 3-15)。

図表 3-15 身近に障害のある人の有無別にみる  
障害のある人がスポーツを行う光景を見ることの有無



日常生活の中で障害のある人がスポーツを行う光景有無についてみると、日常生活の中で障害のある人がスポーツを行う光景を見たことがある人の方が、「テレビで中継番組を観た」「テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た」「インターネット動画で中継を観た」「インターネット動画でニュース番組を観た」において、1%水準で有意に高かった(図表 3-16)。

図表 3-16 日常生活の中で障害のある人がスポーツを行う光景を見ることの  
有無別にみる東京パラリンピック大会の観戦形態

|                                          |    | 全体    | テレビで中継番組を観た | テレビのニュース番組で観た | テレビの選手・競技を紹介した特集番組を観た | インターネット動画で中継を観た | インターネット動画でニュース番組を観た | インターネット動画で選手・競技を紹介した特集番組を観た | (テレビやインターネットの)その他の方法で観戦した | テレビやインターネットで観戦しなかった |
|------------------------------------------|----|-------|-------------|---------------|-----------------------|-----------------|---------------------|-----------------------------|---------------------------|---------------------|
|                                          |    | (%)   |             |               |                       |                 |                     |                             |                           |                     |
| 全体                                       |    | 2,060 | 33.0        | 42.9          | 11.7                  | 2.3             | 2.4                 | 1.3                         | 0.4                       | 42.6                |
| あなたは日常生活の中で、障害のある人がスポーツを行う光景をみることがありますか。 | ある | 194   | ▲48.5       | 52.1          | ▲19.6                 | ▲7.7            | ▲9.3                | ▲7.7                        | △2.1                      | ▼24.7               |
|                                          | ない | 1,866 | ▼31.4       | 42.0          | ▼10.8                 | ▼1.7            | ▼1.7                | ▼0.6                        | △0.2                      | ▲44.4               |

## 6. まとめと考察

本調査の回答対象とした東京パラリンピックに出場した 45 名のパラリンピアンのうち、最も認知度の高い選手は「国枝慎吾」で、「知っている」「聞いたことがある」を合わせた認知度は 45.2%だった。第 2 位は「上地結衣」で、「知っている」「聞いたことがある」を合わせた認知度は 22.5%だった。2016 年度調査でも第 1 位「国枝慎吾」、第 2 位「上地結衣」であり、5 年経過した現在でも、パラリンピアンの中で 2 人の認知度が高いことが明らかとなった。2016 年度からの変化をみるために、いずれの調査でも上位 10 位以内の「国枝慎吾」「上地結衣」「池崎大輔」(本調査第 4 位)と「山本篤」(本調査第 5 位)の結果をみていく。「知っている」「聞いたことがある」を合わせた認知度(2016 年度調査→2021 年度調査)をみると、「国枝慎吾」(34.0%→45.2%)、「上地結衣」(14.8%→22.5%)、「池崎大輔」(5.2%→8.7%)、「山本篤」(5.6%→7.9%)の 4 人全員の認知度が上昇している。実施競技の正答率(2016 年度調査→2021 年度調査)をみると、「国枝慎吾」(79.2%→81.7%)、「上地結衣」(56.4%→71.2%)、「池崎大輔」(17.8%→28.3%)、「山本篤」(22.6%→37.7%)と、認知度同様に 4 人全員の正答率が上昇している。特に、正答率 8 割超の「国枝慎吾」、7 割超の「上地結衣」は、多くの国民が車いすテニスの選手であることを認識していると言える。

オリンピックとパラリンピックの観戦状況をみると、テレビ中継でオリンピックを観たのは 59.5%、パラリンピックを観たのは 33.0%だった。パラリンピックの独占放映権を NHK が保有しており、中継番組の多くを NHK が放映したため、民放各局で放映していたオリンピックと比べて、中継番組を観る機会が少なかったと言える。民放各局で放映したテレビのニュース番組でオリンピックを観たのは 51.4%、パラリンピックを観たのは 42.9%と、中継番組ほど差は開いていない。多くの放送局で取り扱われれば、それだけ国民の目に触れる機会が増えることから、民放各局でもパラリンピック中継をしていたら、中継番組の結果も変わっていたかもしれない。さらに、パラリンピックの観戦状況について、2016 年度調査と比較すると、「テレビやインターネットで観戦しなかった」は 39.5%から 42.6%と、非観戦層が増加した。時差のない国内開催であることに加えて、パラリンピック開催中に限れば、過去 4 大会で最も多くの放映時間を費やしていたにも関わらず、観戦率の上昇には繋がらなかった。コロナ禍での開催となり、開催是非について世論が割れる中、国民全体が必ずしも大会開催に好意的でなかったのも影響しているかもしれない。

東京大会の観戦後の感想については、2016 年度調査同様、「アスリートとして非常に優れていると感じた」(76.4%)が最も多く、ついで、「障害の有無にかかわらず、スポーツは一緒にできると感じた」(70.3%)、「障害者への偏見がなくなった、身近な存在に感じた」

(68.3%)であった。いずれも、2016 年度の結果よりも上昇している。次回大会の直接観戦やボランティア参加については、「2024 年パリ・パラリンピックを直接観戦したい」は 23.2%で、2016 年度調査の「2020 年東京・パラリンピックを直接観戦したい」の 35.2%より減少した。ボランティアとしての関りも、「2024 年パリ・パラリンピックでボランティアとしてかかわりたい」は 15.8%で、「2020 年東京・パラリンピックでボランティアとしてかかわりたい」の 20.5%より減少した。パラリンピックが国内開催か、国外開催かで、国民の行動形態がはっきりと変わった顕著な結果となった。

東京オリンピック・パラリンピックのチケットは、国民の約 9 割が申し込まなかった。実際にチケットを購入して大会を観戦しようと検討していたのは約 1 割である。地域別では、オリンピック・パラリンピックの会場が多く点在する関東地方の申込率が高かったが、観戦に伴う移動費や大会期間中に高騰と言われていた宿泊費などを考えると、関東圏以外の人たちが二の足を踏んだのも当然と言えるかもしれない。

日常生活の中で「障害のある人がスポーツを行う光景を見ることがある」は、2016 年度調査の 6.0%から 9.4%に増加した。地域別では、ほとんどの地域で増加したが、特に関東地方では、2016 年度調査の 3.7%から 8.6%と 2 倍以上増加した。前述のチケット申込率も関東地方が高かったが、スポーツを行う光景をみることも、関東地方の増加率が最も大きかった。こうした背景には、パラリンピック会場が東京を中心に関東圏内に集中していたことで、会場近隣の住民や子どもたちが、他地域に比べて、障害者スポーツの体験会や交流会、パラリンピック教育を受ける機会などが多かったことが考えられる。そうした経験の積み重ねが、多角的に物事を見る目を養い、これまでは気付いていなかった障害のある人がスポーツを行う光景にも気付くようになってきたことも考えられる。

身近な環境に障害者がいるかどうか、自身の行動に影響を与えているとも言える。本調査の結果からも、パラリンピックの観戦状況やパラリンピック観戦後の感想について、身近に障害者がいる人の方が、身近に障害者がいない人よりも有意に高かった。一方で、身近に障害者がいない人は、日常生活で障害者がスポーツをする光景を見ることが、障害者スポーツの体験希望やボランティア希望、障害者との交流などについて、有意に低かった。

2013 年から始まったパラリンピックに向けた機運醸成も一段落した。国民の意識や行動が少しずつ変わってきたことは、本調査でも明らかになった。東京大会のレガシーを評価する上での一つの判断材料は提供できたと考えるが、長期的にみて 10 年後、15 年後の日本社会が、東京大会を契機にどう変わるかは、引き続き注視していきたい。

(小淵和也)

